



橋本聖子 東京オリンピック・パラリンピック担当 男女共同参画担当 女性活躍担当 国務大臣

3歳からスケートを始め、オリンピック・サラエボ大会を皮切りに、冬季大会(スピードスケート)4回、夏季大会(自転車競技)3回、計7回のオリンピックに出場。

平成7年、参議院議員自由民主党比例代表区に初当選、現在5期目。

大崎市民の皆さまへメッセージ
～ You Tube から動画配信～



▲ QRコード

橋本聖子

国務大臣



大崎市長

伊藤 康志

東京オリンピック・パラリンピックへの期待
～ 元気に歩み出す大崎市～

合併15周年、東日本大震災から10年、そして、待望の東京オリンピック・パラリンピックが開催される令和3年。本市にとって大きな節目となるこの年に、橋本聖子大臣をゲストに「宝の都(くに)・大崎」の市政の課題、将来像などについて、伊藤市長と語っていただきました。

新春対談

東京オリンピック・パラリンピックへの期待

市長 あけましておめでとうございます。令和3年は本市にとりまして、合併15周年の記念の年にあたります。そして、待ちに待った東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、市民生活や社会・経済活動に与えた影響は大変深刻なものでした。そうした中、東京大会の開催、そして成功に大きな期待と願いが込められていると思いますが、大会実現へ向けての準備などお聞かせください。

大臣 いよいよ、東京オリンピック・パラリンピックを迎える年が明けました。本年の東京大会を、人類がコロナ禍を乗り越えた証として、日本全体で力を合わせて開催し、世界中の多くの人々が夢と希望を分かち合う、新たなオリンピック・パラリンピックのモデルとなる大会として、世界へ発信していきます。「安全・安心な大会を必ず成功させる」との決意です。

東京大会におけるコロナ対策については、国、東京都、大会組織委員会によるコロナ対策調整会議において議論を進めてき

は美しく、懐かしく、私にとっても第二の故郷です。昨今、自然災害が相次ぎ、誰もが被災者になりうる時代です。災害が起きた時に被害を最小限に抑え、素早く復旧・復興を進めるには、地域での官と民、関係団体の連携が欠かせません。また、年月を経て復興が進めば、課題は分散し、個別化していくはずですが、復興を確かなものにするには、この過渡的な時期をしっかり乗り切りねばならないと考えています。

市長 本年は、東北デステイネーションキャンペーンが開催されます。オリンピックイヤーで誘客にも期待されます。世界農業遺産の大崎耕土、「温泉番付東の横綱 鳴子温泉郷」など、豊富な資源を体感してもらうため、「おもてなし」の準備を進めています。本市の役割や期待をどう思われますか。

大臣 政府は、人口減少対策として、地方創生の取り組みを進めてまいりました。とりわけ、観光需要発掘によるインバウンド効果は、その柱でした。でも、コロナ禍は、地方の観光業界に深刻な打撃を与えています。おとし3000万人を超えた訪日外国人は、昨年上半年、395万人に落ち込みました。観光に頼

まして、昨年12月には、「中間整理」として取りまとめました。この対策を確実に実施してまいります。そして、世界各国からお集まりいただく方々との、ホストタウンなどにおける交流の輪も広がっていきたくと思っています。

「復興五輪」～東日本大震災から10年～

市長 東日本大震災から10年が経ちます。「復興五輪」の旗を掲げる国として、宮城県、東北の取り組みに期待する効果など、大臣はどのように受け止められていますか。

大臣 「復興オリンピック・パラリンピック」の実現は、大会の重要な柱の一つです。震災直後からこれまで温かい支援をしてくださった大会参加国・地域と被災地の自治体が交流を行う「復興ありがとうホストタウン」は、宮城・岩手・福島、3県を対象に、現在32自治体まで増えてまいりました。その他、聖火リレーや被災地産の食材の活用を含め、復興の後押しとなるよう被災地と連携した取り組みを推進していきたいと思えます。世界各国からの注目が日本に集まるこの機会を最大限生かして、震災から復興しつつある姿を世界

り過ぎたことを反省しつつ、地域の暮らしを守り、住民参加で課題に取り組んでいくことが必要です。大崎市をはじめとする中核都市の、子育て、自然環境、住民の交流などの暮らしやすさや、地域の特徴を生かした持続的な取り組みにも、もっと光を当て、配慮すべきだと考えています。

生涯スポーツ・健康づくり

市長 昨年は明るいニュースもありました。なかでも、三本木パークゴルフ場がオープンし、県内外からたくさんの方々の愛好者に来場いただいています。スポーツを通じた健康づくり、まちづくりなどについてアドバイスをお願いします。

大臣 わが国が、コロナ禍を克服するためには、感染防止策を講じるとともに、スポーツ文化をキーワードに免疫力を高め、健康寿命を延ばす必要があります。そして、余暇を充実させ、心豊かに健やかに生きることは、オリンピック・パラリンピック東京大会が世界に向かつて発信すべき、重要なメッセージでもあり



に向けて発信するとともに、次世代につながる取り組みを進めていきます。

「宝の都(くに)・大崎」市政の課題 将来像

市長 東日本大震災、令和元年東日本台風からの復興、そして、コロナ禍から社会・経済活動の回復に向けた節目となる年。本市では、復興の象徴、総仕上げとなる、本庁舎建設や周辺地区の整備事業に着手しております。また、大規模な自然災害が発生する昨今において、豊饒の大地「大崎耕土」を次世代に引き継ぐため、抜本的な防災・減災対策にも取り組んでいるところで、大臣の「ふるさと大崎市」に対する思いをお聞かせください。

大臣 幼い頃、父が語ってくれた祖父の故郷、大崎市三本木

ます。コンパクトなコース設計ながら、初心者から上級者、子どもから高齢者まで多くのプレーヤーが幅広く楽しむことができる大崎市新世紀公園三本木パークゴルフ場は、活力ある地域社会の拠点として、大きく発展されることでしょうか。私も是非一度プレイしてみたいと、今から楽しみにしています。

市長 ありがとうございます。

丑年は、粘り強さと誠実さの象徴と言われています。市民一丸となり、新たな発展へとつなげる年となること、そしてまた、東京五輪の成功を祈念いたします。

